

第3回サステナビリティ 実施報告書

自然への配慮、敬意、創造力に
よる未来へのアプローチ

オルネツライアとマツセート におけるサステナビリティ への取り組み

自然への配慮、敬意、創造力に
よる未来へのアプローチ

最高経営責任者から のご挨拶



オルネッライアとマッセートでは、サステナビリティを企業の中核戦略に据えています。責任ある成長を実現し、持続可能な文化を共有する上で、サステナビリティが非常に重要と考えるからです。水、土壌、生物多様性など、天然資源を大切にし、気候変動の影響を受けながらも人々の健全な生活を維持するための取り組みが、当社の目標です。持続可能な農業とは、単に自然環境だけでなく、社会的、経済的な環境も含みます。ワイン生産に携わる世界中の人々、その生活の質や人権、社会的な公平性を確保する必要があります。

この目標を達成するには、単に自然に対する負荷を減らすだけでは不十分で、さまざまな取り組みが必要となります。この第3回目の報告書では、総合的な持続可能性に向けた2023年度の活動を報告します。この成果を共有し、活用していただけたら幸いです。当社では、自然への影響を大幅に削減できる新技術を導入して天然資源の消費を削減し、それを監視システムでチェックすることで、前年度の課題を改善しています。当社では、WBA(World Benchmarking Alliance: 生物多様性ベンチマーク世界同盟)が定めた「生物多様性認定」に沿った取り組みを始めました。これは、畑の生物多様性指数を測定しながら、自然環境を保護する活動です。この認定では、土壌、大気、水の自然保護において、目標を達成するために必要な対策や、測定項目を明確に示しているため、持続可能性を維持する上で、具体策や目標値が明かになります。

地元社会に向けて、当社が生物多様性に常に精力的に取り組んでいる姿勢を示すことは非常に重要であり、地域社会が必要としているサポートにも繋がります。ワインは、他のどの製品よりも大地と人間の技術との絆を体現しています。これを認識して、環境保護に留意し、地域の文化、歴史革新などの遺産をそのまま保全する持続可能な生産システムを採用しています。目標の達成には、地元地域やコミュニティへの支援も欠かせません。この報告書により、自然保護の取り組みが、具体的、かつ、測定可能になると確信しています。オルネッライアとマッセートの最高経営責任者として、生物多様性保全に日夜、取り組んでいる皆様に感謝申し上げます。

オルネッライア・マッセート最高経営責任者
ランベルト・フレスコバルディ



内容

1 活動の基本方針 P. 06

4 2025年までの目標の再評価 P. 28

2 2023年度の主な成果 P. 11

5 オルネッライア・マッセート
サステナビリティ委員会 P. 30

3 サステナビリティの基本方針 P. 15

活動の基本方針

1

富は多様性にある。地球の産物は、
守り育てる必要がある。
これこそが、人間の義務であり、
創意工夫を如実に示す。
常に先駆者として歩みを進め、
研究と人を大切にし、地域を尊重してきた

リスペクトの輪 - 「研究」「共有」「尊敬」の価値

オルネッライアとマッセートは、地域住民の方々、コミュニティ、地域、環境、資産、文化的・社会的活動、公的機関、団体に対し、責任を持ち、持続可能で包括的で透明性のある方法で事業を展開しています。両社は、ウェルビーイング、循環型経済、環境保護を追求し、ステークホルダーの経済的価値向上に貢献し、広く社会的、環境的な利益を生んでいます。

以下に、基本方針を示します。

- 環境、経済、社会の三者が協調して持続可能性を追求
 - 再生可能モデルへの生態学的に移行。これには、再生可能エネルギー、農業的エコロジー、循環型経済への移行を含む
 - 生物多様性を尊重する組織に変化するプロセスとして、革新と継続的な改善
- これにより、当社の活動が目標に向かって正しく進んでいることを確認できます。

「革新」として、以下の分野に焦点を当てています。

- 経済的価値の創造
- 健康や幸福としてウェルビーイングを追求
- ワイン生産の環境を保護するための循環型経済施策

上記の3つの目標は、自然資源の消費量とガス排出量の段階的な削減を目指す当社の方針と合致しています。この持続可能な環境を作るプロセスは、当社が採用してきた手法の先にある「進化した目標」であることを示しています。

2023年度に向け、オルネッライアとマッセートは、実践と活動を通じて、共通の利益目標を達成し、数年間、当第3回報告書に記載した新たな目標に向かって活動します。



1. 環境とワイン生産の持続可能性

オルネッライアとマッセートでは、持続可能に向けたプロセスの実施、区画ごとの土壌やブドウに対応した精密度の高い栽培、気候変動へ適応した資源の利用、データをベースにした環境資源と地域の保護のための技術革新とデジタル化の活用を通じて、環境と生物多様性を保護します。



2. 倫理性：企業倫理と責任

高い倫理観と道徳観を持ち、常に「正しい」行動を取ります。倫理観を尊重し、経済的な視点と、環境的な視点を統合することで、「生活の質」において、常に進化することを目指します。



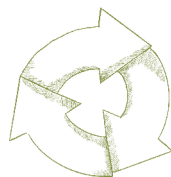
3. 人的要素：人事評価

敬意を持って接し、団結力を強め、地域社会へ貢献すること。人材の中心的役割を認識することは、組織の健全で強固な基礎を築くことになります。人材の育成は、働く人の権利を尊重し、潜在能力を最大限に発揮させ、一人ひとりのアイデンティティの重要な構成要素として、幸福の追求をサポートすることが前提になっています。



4. 顧客の保護

顧客のニーズを理解し、毎年、顧客の期待を上回る結果を出せるよう全力で臨みます。



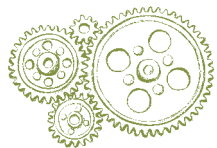
5. 循環的経済の進展

パートナーとの循環的な経済活動を進めることで、前述のコンプライアンスに関する基本方針を達成します。



6. 品質の最優先

より高い品質を目指し、常に努力を怠りません。



7. 優位性と革新性

最新の生産モデルを分析することで、ワインの生産工程に最先端の技術を導入できる可能性があります。生産性の高い技術を取り入れることで、品質面、および、廃棄物を減らし、環境を守る自然保護の両方で、効果が期待できます。



8. 研修の奨励

当社では、持続可能性の原則に従って業務を遂行する意識を高めるため、スタッフのモチベーションを刺激しています。サプライヤー・チェーンでも、オルネッライアを介して繋がりがあがる他の生産部門が認証を取得できるよう、研修の受講を薦めています。



9. 地元地域の社会的、経済的価値の創造

当社は、地元サプライヤーと協調して、地域社会のイニシアチブを支援することで、地元での雇用創出と経済面の成長を実現しています。

2023年度に達成した目標

2

2.1. 2023年度に達成した 目標

畑からワインに至るまで、自然資源を効率的に利用し、環境に配慮することで、地域と調和すること。これを達成するため、すべての行動が「社会的に公正であること」「環境に安全であること」「経済的に実行可能であること」の3つの重要な要素を考慮した統合的なプロセスを作りました。



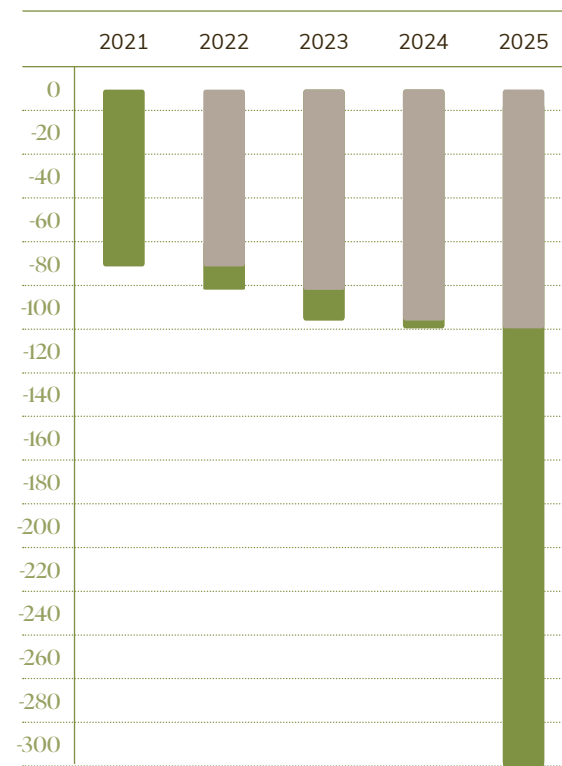
マッセートと、ポッジョ・アツレ・ガッツェ・デル・オルネッライアのボトルを軽量化： 合計13.3トン



ワインの二酸化炭素排出量を算出する上で、ガラス瓶は大きな割合を占めます。輸送も考慮すると、ボトルは温室効果ガスの大きな排出源となります。ボトルの軽量化は、微量でも大きな成果が出るため、毎年、少しずつ重量を減らしています。

■ トン

■ ボトル重量削減の比較



生産部門での電力使用量の削減

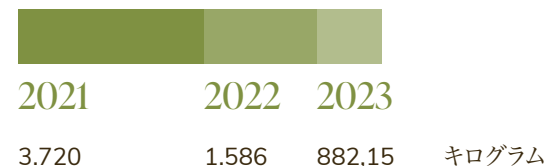


電力消費監視システムの導入により、108,907キロワット時(2022年比11%減)の削減を達成。消費量監視システムで課題が明確になり、具体的な成果につながる代替システムの開発し、あらゆる形態の無駄を削減。エネルギー効率化対策は実施済み。

紙の使用量削減プロセス

デジタルツールの開発により、紙の使用量は882.15キログラム削減。

紙使用量の削減



地元団体への寄付

- ・トスカーナ州カスタンニエート・カルドウッチのミセリコルディア病院とドノラティコ赤十字病院に手術用マスクを寄贈
- ・サッカー・チーム、USDサン・ヴィンチェンツォにユニフォームを寄贈
- ・サン・パトリニャーノ（フィレンツェの薬物中毒者の治療施設）、オペレーションズ・スマイル（ローマにある小児病施設）、ロシニャーノ・ロータリー・クラブ（フィレンツェ）、ダイナモ・キャンプ財団（フィレンツェのある重症児の治療施設）、URIの友（ミ

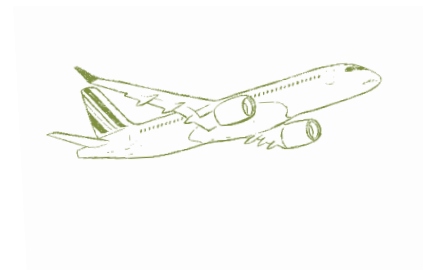
ラノの泌尿器系治療施設）、アヴァポ・ヴェネチア（ヴェネチアの癌治療施設）、リキッド・アイコンズ（ロンドンのワイン系慈善団体）への寄付。

地元を支援することは、地域社会に不可欠なメンバーになることです。それは、共通の利益のために働く地元団体の支援にも。

二酸化炭素の排出量の削減

- ・航空、KLMオランダ航空とパートナーシップ契約を結び、輸送での二酸化炭素排出量を削減しています。当社の社員が出張では、「Well-to-Wake（燃料を生産・輸送し、使用するまでと、使用中に発生するすべての排出物）」で、16.5メトリックトン削減できました。
- ・DHLとパートナーシップ契約を結び、同社の

「GoGreenキャンペーン」により、二酸化炭素の排出量を20.6キロの削減に相当する成果が出ました。



サステナビリティの基本方針

3

サステナビリティレポートは、客観的かつ
定量化されたパフォーマンス指標を通じて、
より良い未来へのコミットメントを示し、
再確認するためのツールです。

3.1. 環境の指針

3.1.1 畑

WBAの生物多様性認定の取得に向けて

2023年、WBAによる「生物多様性」の認証取得に向けたプロセスを開始しました。2年間の現状分析を経て、2024年度に取得予定です。この認証は、12の畑の区画で生物学的な多様性の進捗度を土壌、水、大気に関する生物学的な数値で検証するプロセスです。

生物多様性とは、陸上、海洋、その他の環境間で水生の生態系、および、それが属する生態学的な複合体を含み、生物間のあらゆる変動性を意味します。同じ種の内、異なる種の間だけでなく、異なる生態系間の多様性も含まれます。

生物多様性は、生命の存続に極めて重要であり、生態系、生物種、個体群が新しい環境に適応し、環境の変化を吸収することを可能にします。これは人類にとって、極めて重要な資源といえます。

生物学的指標の分析

農業システムの環境品質は、生物学的指標と定義している特定の生物の個体数を計測することで表します。「特定の生物」とは、汚染物質に対する感受性が強く、局所的に広く分布し、移動性が低く、自身の組織内に汚染物質を蓄積できる能力を持つ生物を意味します。



IBS (土壌生物多様性指標) は、土壌生態系が動態に対する役割と、土壌無脊椎動物(環形動物、ゼンマイ、ダニ、等脚類など)の個体数を計測して、土壌の質を評価します。持続可能性を追求するには、合理的な土壌管理を導入する必要があります。内生微小節足動物は、内部で緻密なネットワークを構築し、外部の物理的な環境と継続的に相互作用するため、個体数を計測したり、増やすことが可能です。土壌生物群は、環境の変化を体内に記録しており、自然条件の変化の指標として利用できます。12の畑の区画を分析した結果、土壌のポテンシャルは非常に高いことが分かりました。生物多様性保全の視点から、細心の注意で専門的な土壌管理をする上で、効果が高い施策が分かりました。

以下、生物多様性を推進する上で、効果の高い

- ・ 側溝と水辺を覆う草本や低木を維持・管理する
- ・ 固有の周期で花を咲かせる低木を維持・管理する
- ・ 雑木林を管理する
- ・ 自然、および、人工の湿地帯を管理する

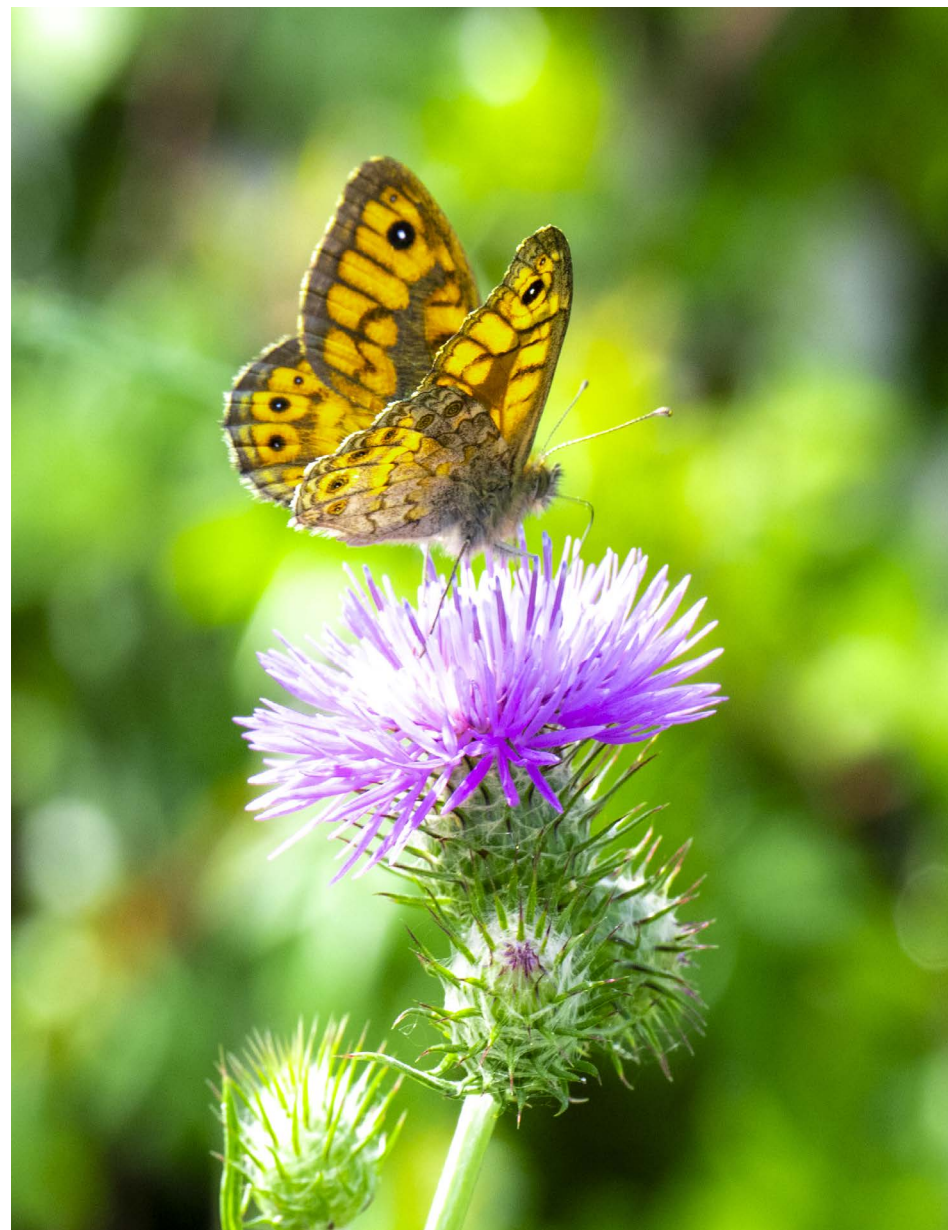
この施策により、生物学的多様性の観点から、動物相、特に両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類などの内生動物相や高等動物相の保全が可能になります。

全体での**IBS-bf**の最終的な平均値は**169**(標準偏差値は**16**)であり、良好な値を示しています。



IBL (Lichen Biodiversity Index: 地衣類生物多様性指標)は、植物上に生える地衣類の研究によって算出した値で、大気環境を計測します。地衣類は、菌類と藻類の共生生物であり、毒性のあるガスによる大気汚染に非常に敏感に反応します。地衣類は、生物学的指標として優れており、大気バイオモリトメトリーとして使用します。農薬に対する感度が高いため、農業地帯では理想的な「センサー」となります。この指標を計算する場合、田園地帯の樹木の樹皮で検出した着生地衣の存在や頻度を基準とします。

全体でのIBL-bfの最終的な平均値は69(標準偏差は14)で、非常に良好な値となりました。



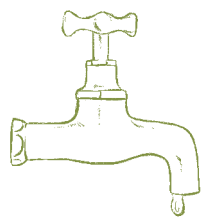
IBA(水生生物多様性指標) は、水生無脊椎動物群集の組成を分析することで、表流水の水質を評価します。この指標は、表流水中の汚染に対する耐性が異なる水生大型無脊椎動物(カワゲラ類、トビケラ類、カゲロウ類、甲殻類、軟体類など)の存在を基にしており、水生環境全体が主要な生物多様性の生息にどの程度適しているかを評価します。

最終的なIBA-bfの平均値は54(標準偏差16)であり、良好な値と考えています。

畑のある地域には、生垣、森林、湧水、流動している淡水流域、水辺の植生(草本、低木、樹木が混在している場所もあります)のある地域など、生態学的多様性に貴重な場所が点在しており、広い意味での、退避地や、生態多様性の存在も確認します。



3.1.2 使用量の管理



醸造施設での作業と瓶詰めでの水の使用 「節約と再利用することにより、醸造施設の水は貴重な資源となる」

この分析では、収穫、醸造、熟成、瓶詰め等のセラーでの作業における水の使用に焦点を当てました。瓶詰めの工程では、継続的に状況を監視したことで、洗浄手順を見直し、作業時間を最適化し、使用量を削減できました。一方、生産の工程は、タンクや樽の洗浄で水を大量に使用することを考えると、時間がかかる複雑な工程と言えます。

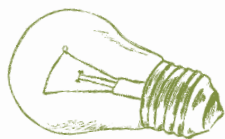
2023年(初年度の)分析から、目標は一貫しており、水の無駄に使うことや過剰な使用を避け、作業の品質に妥協することなく、効率を落とさず、必要とする水の使用量そのものを削減するため、作業の改善点を模索することです。

年間データ分析

2023年：浸透圧廃棄物控除後、ワイン1リットル当たり5.4リットルの水を使用(2022年比12%減)

2025年までに、**2022年比で消費量を-20%削減**し、ワイン1リットル当たりの必要水量を5リットル以内にする。

電気 目に見えないエネルギー



2022年、年間を通し一定温度に保つワイン熟成庫の冷暖房システムは、これまで、電気式熱発電器とヒートポンプを使用していたが、消費量が少なく効率の良い「温冷両用ヒートポンプ」に変更した。

年間データ分析

2023年：750ccの標準ボトル1本当たり**0.48KWh**

3.1.3 エネルギーと水の使用量の 全データをコンピュータで監視 するシステム

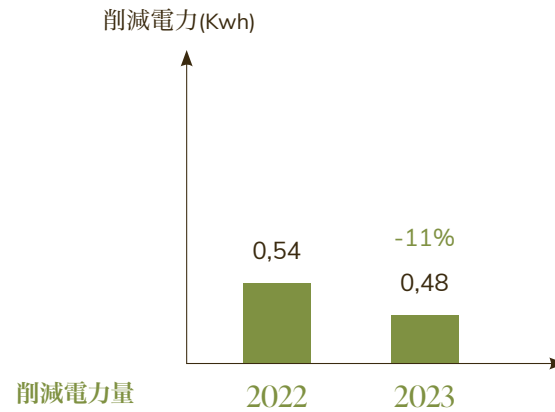


2022年末に調査が完了し、オルネッライアとマッセートでの生産工程にコンピュータによる水とエネルギーの使用量を監視するシステムを導入しました。同様のシステムをオフィスでの水とエネルギー管理にも導入しました。監視システムは、2023年1月から稼働しています。

2023年と2022年の中間目標値の比較

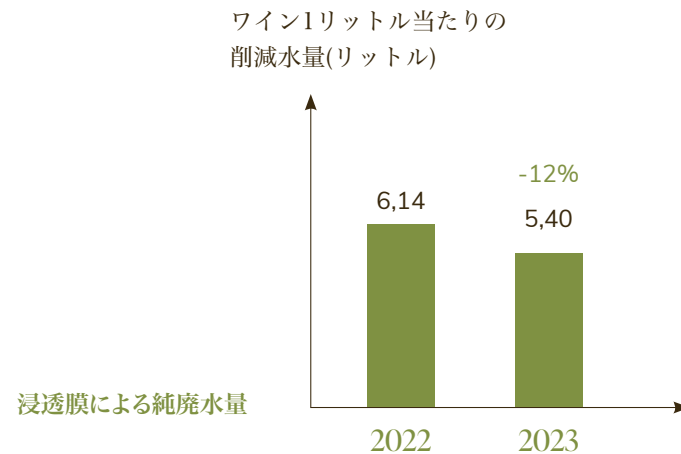
電気使用量と水使用量の削減値は、目標達成で非常に重要となります。

- ・ 電力使用量の削減では、毎月の使用量を監視したことで、非効率な部分へ対策



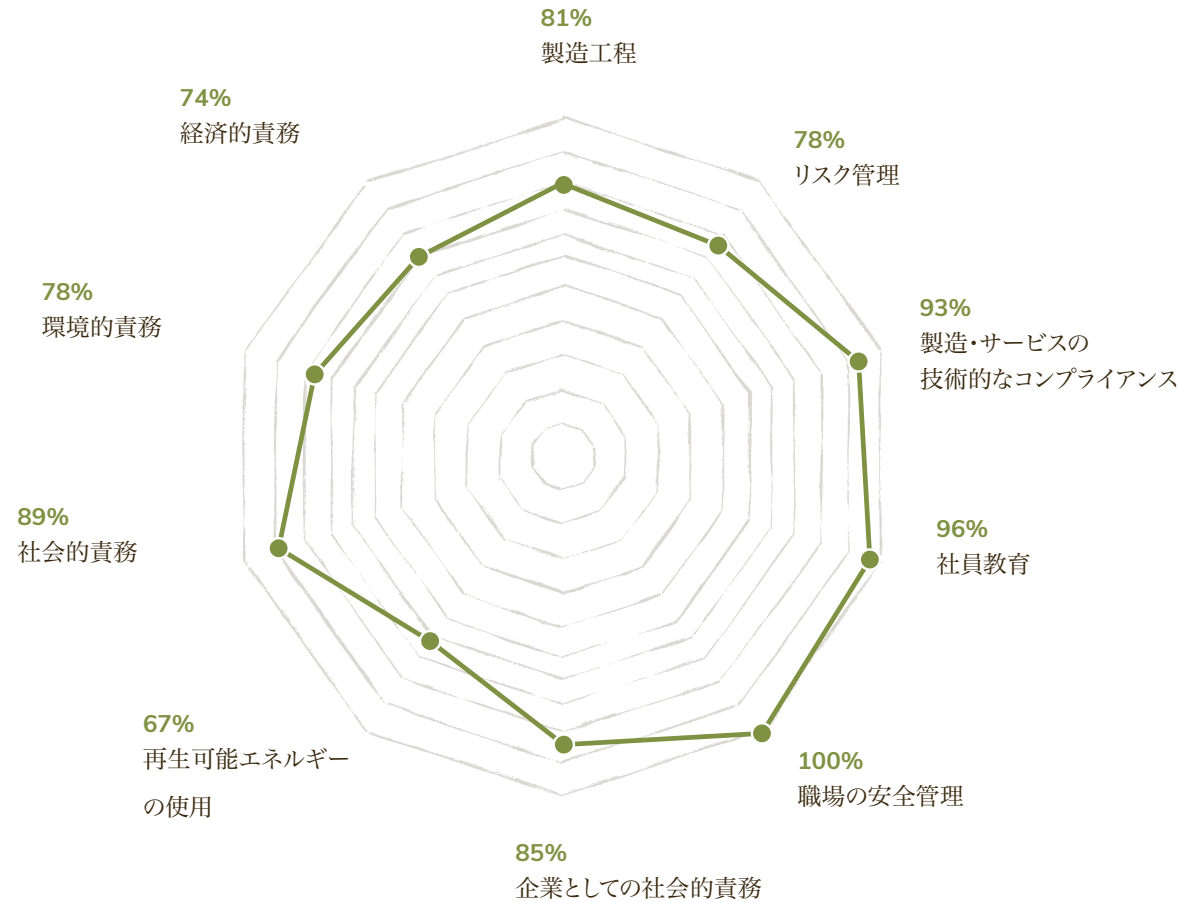
手詰め、および、ラインでの瓶詰め、梱包での
750ccの標準ボトルあたりの電力削減量

- ・ 水使用量の削減では、瓶詰めラインでは水管理の改善、醸造施設では洗浄手順の抜本的な見直しにより、設定目標を達成。



3.1.4 サプライヤーとの理念共有

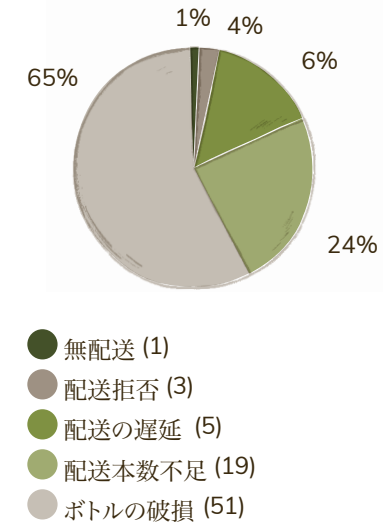
2022年、主要なサプライヤーを対象に、オルネツライアのように、企業の社会的な責任を分析しサステナビリティの追求に関するアンケートを実施しました。
2023年にも同じアンケートを実施し、主要サプライヤーは当社と同じ企業理念を共有していることを再確認しました。



3.1.5 情報の管理と 苦情処理

2023年度に受けた苦情は全件対応しました。
総出荷数9,513件のうち、苦情を受けたのは、わずか0.83%でした。苦情は全て配送後のため、苦情レポートはカスタマー・サービス部門が管理しました。

苦情の件数	79
総発送件数	9,513
苦情発生割合	0,83%



3.1.6 梱包

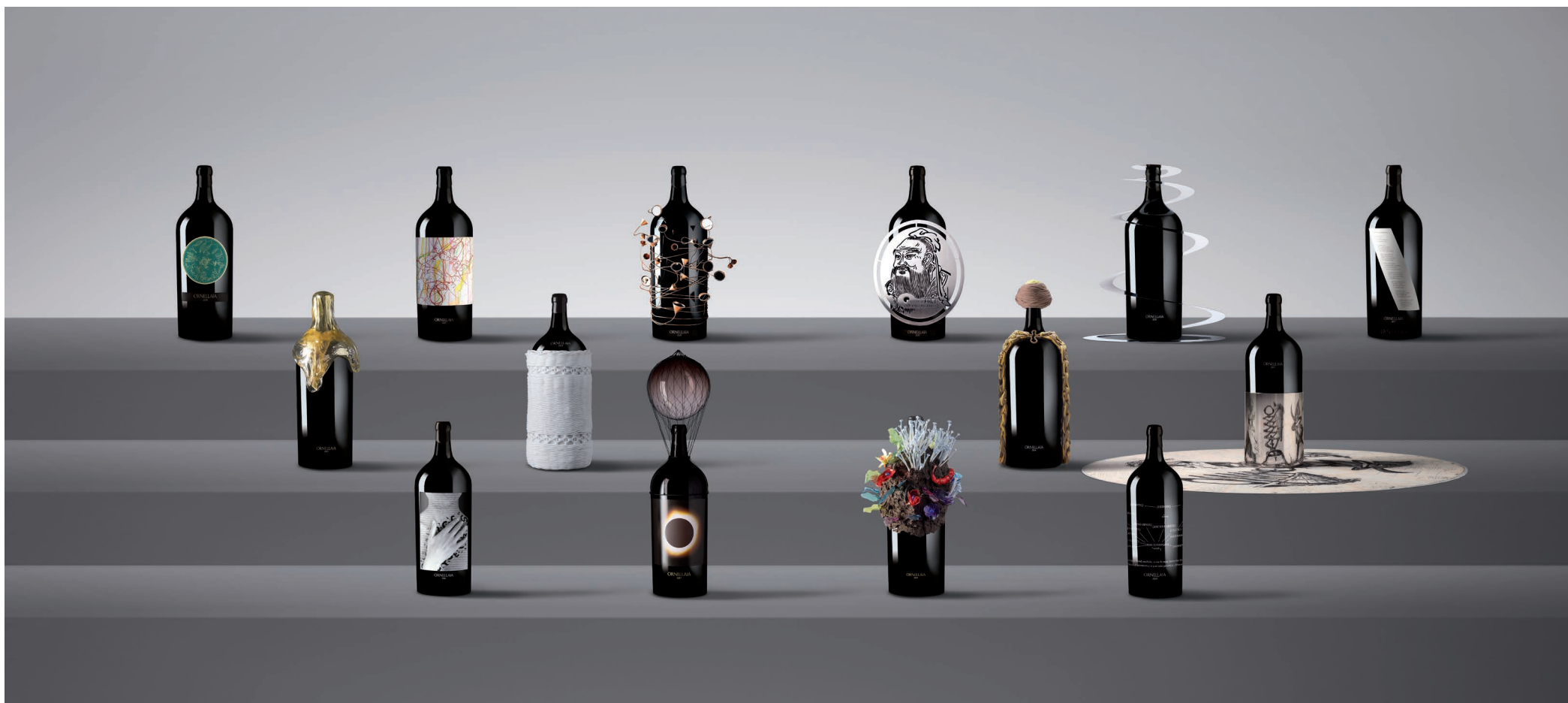
前年から引き続き、紙の資料をデジタル・データに置き換えています。100%の置き換えが完了していない部分でも、移行率は70%超であり、これからも、この取り組みを継続します。

2021年、生産部門での資材使用状況を分析し、ワインを熟成庫に入れる際にプラスチックを大量に使用してパレットを梱包していることが分かりました。2022年、再生プラスチック60%からなるストレッチ・プラスチック・フィルムへ移行を開始しました。2023年も、再生プラスチックへの移行を続け、今後、数年に渡ってプラスチックの使用量を大幅削減する予定です。さらに、サプライヤーを選ぶ場合、「梱包はFSC認証に従っていること」との選択基準を設け、FSC認定の

梱包率は100%になりました。夏季の出荷では、再生紙をベースにした断熱材で包装しています。

3.2. 社会貢献

ワインと芸術の融合である「ヴェンデミア・ダルティスタ」において、収益金の全額をソロモン・R・グッゲンハイム財団に寄贈しています。今年も成功裏に幕を閉じました。オルネッライアは、サザビーズの支援を受けてチャリティ・オークションを開催し、視覚が不自由な人でも、全身の感覚を駆使して芸術を鑑賞できる「マインズ・アイ」プログラムに、32万5,000ドルを寄付しました。



社内研修

— 全従業員を対象にした持続可能性関連のミーティング

時間管理

コミュニケーションと顧客満足度

パブリック・スピーキング

ビジネス英語

社内外での交渉

全社規模でサステナビリティのミーティングを実施し、従業員の認識と動機づけがあらゆるレベルで高くなりました。

オルネッライアとマッセートの両方で、畑と醸造施設でのワインの全生産工程と、知識システム(研究センター、社内研修、大学、コンサルティング・サービス)の統合を目指しています。

豊かな知識をベースにした経営は、生産において自然資源を尊重しより質の高い商品製造へと繋がります。貴重な資源である人材に投資することで、人的要素を会社の中心に据え、トレーニングを通じてイノベーションを進展させることを目指します。

2025年までの新5ヵ年投資計画

2,2mln €

2025年に承認された投資計画



+22%

2021年に承認された初期計画



653.000 €

2023年の支出額

- ・従業員への賞与や福利厚生に関する福利厚生計画を継続する。

2025年までの目標の再評価

4

2025年度までの目標

1.	ボトルの軽量化： 300トン減	32.5%達成
2.	セラーでの水使用量の削減 20%削減	12%達成
3.	LED電球への移行 100%達成	100%達成
4.	電気やハイブリッドによる輸送 社内移動用の自動車とミニバスの購入	20%達成で、現在も進行中
5.	太陽光発電のパネル増設 表面積を3倍にするため、調査・検討中	調査・検討中

オルネツライア マツセート サステナビリティ委員会

5

サステナビリティ委員会

相互の信頼と情報共有に基づき、サステナビリティの目標達成に向け、目標ごとに担当を定める。

本委員会は、予算として承認した活動目標を尊重し、全社で実施していることを検証・確認しなければならない。

各委員は、相互にビジョンを共有し、担当部門の責任を持ち、実行プロセスの質を高める。

